

再評価調書 (再々評価)

事業名	淀川水系 尺治川 通常砂防事業				
所在地	交野市 私市				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	人家等に直接的に土砂災害を及ぼす恐れのある溪流について、砂防施設の整備を促進し、土石流等の土砂災害に備える。			
	内容	溪流保全工 護岸工 L = 980m			
	事業費	全体事業費：約18.2億円(約18.2億円) うち投資済事業費：約16.1億円(約7.2億円) (内訳) 用地費約11.6億円(約11.6億円) (内訳) 用地費約11.1億円(約4.4億円) (土地単価約8.0万円/㎡) 工事費約6.6億円(約6.6億円) 工事費約5.0億円(約2.8億円) (工事単価約67万円/m) ( )内の数値は再評価時点のもの			
	維持管理費	-			
	上位計画等の位置付け	大阪府都市基盤整備中期計画(案)			
	関連事業	なし			
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	再評価時点	現時点	分析
		事業採択年度 H2	事業採択年度 H2	事業採択年度 H2	計画通り実施
		事業着手年度 H2	事業着手年度 H2	事業着手年度 H2	
		完成予定年度 H5	完成予定年度 H20	完成予定年度 H20	
進捗状況		用地：38% 工事：43%	用地：96% 工事：76%		
途中段階の整備効果発現状況	護岸整備により河道の安定を図り、出水時における氾濫を防止し、保全対象の安全を確保する。				
事業進捗に関する課題					

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		災害発生の危険度 流域の地質は脆弱な風化花崗岩で形成され、溪岸侵食が著しく、溪床には不安定土砂及び転石が堆積しており、出水時には下流人家及び公共施設への被害が及ぶ危険性がある。	同左	同左	諸条件に変化なし
地元等の協力体制		地元からの改修要望もあり、積極的に事業に協力していただいている。	同左	同左	地元等の協力体制に変化なし

	計画時の想定		備考	再評価時点での状況	現時点での状況（変更点）	分析
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益の分析手法が確立されておらず、算出していない		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>B/C = 1.61</math></li> <li>総便益 B = 約 29.3 億円</li> <li>総費用 C = 約 18.2 億円</li> <li>※ 算出根拠 国土交通省河川部砂防部 (H10) 「土石流対策事業の費用便益分析マニュアル」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>B/C = 1.50</math></li> <li>総便益 B = 約 26.8 億円</li> <li>総費用 C = 約 17.8 億円</li> <li>※算出根拠 国土交通省河川局計画課監修「治水経済調査マニュアル」 国土交通省河川部砂防部 (H15) 「土石流対策事業の費用便益分析マニュアル」</li> </ul>	本事業の整備による事業効果が期待できる。
	その他の指標（代替指標）					
事業効果の定性的分析	安全・安心	土砂災害による被害の軽減が図れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受益者など 地域住民</li> </ul>	変更点特になし	変更点特になし	工事進捗どおり、土砂災害による被害の軽減が図れている。
	活力					
	快適性	溪流沿いの管理用通路を散策道として利用できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺住民</li> <li>・ ハイキング客等</li> </ul>	変更点特になし	変更点特になし	
	その他					
自然環境等への影響と対策	周辺の自然環境に配慮し、できる限り自然石を用いた護岸を採用。			変更点特になし		自然石等により、周辺の自然環境に整合した整備となっている。
その他特記すべき事項	前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要	<意見具申> 事業継続 <府の対応方針> 事業継続	今回再評価時点の反映状況			